

兎島諸島地域振興計画

I. 地域の概要

児島諸島地域は、本県南部の倉敷市に属し、風光明媚な瀬戸内海の中程に位置し、瀬戸大橋の本土側架橋地点である鷲羽山地先に近接して点在しており、気候は典型的な瀬戸内海気候である。

平成24年現在の有人指定離島は、松島、六口島の2つの島である。

平成24年4月1日時点での人口は松島3人、六口島9人と両島合わせても12人であり、固有の地理的、社会的な制約に加え、主産業である農水産業の減退も影響し、前回計画を策定した平成12年以降も依然として減少傾向にあり、本地域では40%の大幅な減少になっている。また、年齢構成は、年少人口0人(0%)、生産年齢人口3人(25.0%)、老年人口9人(75.0%)となっており、高齢化率が75%と非常に高い。

II. 施策の内容

(1) 振興の基本的方針

本地域は、瀬戸内海国立公園内の中程に位置し、その多島美と豊かな自然環境が風光明媚な景観を醸し出している。加えて、近辺には瀬戸大橋が架橋されており、本地域はそれを一望できる優れた眺望地点でもある。本土に非常に近接しており、本土からの所要時間は15分程度である。

一方で、各離島の面積が小さく、また、国有林野の面積が大半を占める離島もあり、本土に近接していることから、定期航路がないこともあって、深刻な人口減少、高齢化により、観光業、水産業等の主要産業だけでなく、日常生活面においても、担い手不足が深刻な問題となっている。また、東日本大震災で離島が大きな被害を受けたことを踏まえて、津波を想定した災害対策を講じる必要がある。様々な状況を想定した上で、諸般の施策を講じ、本地域の安心安全な地域づくりに努める。

(2) 生活環境の整備

【現状と課題】

本地域は、各離島の人口規模や島内における居宅の配置状況等から家庭ごみ・し尿収集を実

施しておらず、住民による自家処理を行っている。

離島においても、ごみ減量化の観点から、一般廃棄物の分別収集を実施する上で、特に、資源ごみ、埋め立てごみの処理対策が必要である。

【施策の内容】

引き続き、家庭ごみの分別収集の協力をお願いするとともに、資源ごみや埋め立てごみについては、定期的又は不定期によるごみ収集員の派遣による収集活動の実施について検討する。

(3) 医療の確保

【現状と課題】

本地域には、医療機関はなく、住民は必要に応じて、自家用船で本土の医療機関へ受診に行っている。

近年における救急医療搬送の実績はないが、住民の高齢化、観光客のケガや疾病、災害時等の緊急時の対応を検討する必要がある。

【施策の内容】

医療機関のない本地域においては、日常生活における健康管理および健康づくりが重要であるため、保健師による定期的な健康相談を実施する。

また、救急医療搬送については、民間渡船者とも連携し、迅速な搬送システムの構築に努める。

(4) 防災対策

【現状と課題】

本地域は、気候の穏やかな瀬戸内海に位置しているものの、離島固有の自然的特性のために、自然災害が発生する危険性が高い。住民の高齢化を踏まえ、緊急時における情報伝達手段の確保、緊急避難場所の確保等の取組が必要である。

【施策の内容】

住民への情報伝達手段の確保、緊急避難場所の確認等により、住民が自分で身を守ることでできるソフト事業を実施するとともに、住民が孤立しないように行政担当部署間の連携体制を確立する。

(5) 観光の振興・交流人口の拡大

【現状と課題】

本地域は、瀬戸内海国立公園内に位置し、瀬戸大橋も近接しているため、その眺望の良さに加え、象に似た形の奇石である国指定天然記念物‘象岩’などの特有の資源も有している。また、海水浴、釣り、キャンプなど海洋レクリエーション客も多く訪れている。

更に、対岸本土側は、瀬戸内海を展望する名勝地である鷺羽山や北前船が往来した江戸時代の港町の情緒を色濃く残した下津井地区の町並みや、世界的な競争力を有する水島コンビナート、「ジーンズ発祥の地」として繊維の町としての新たなまちづくりの取組みで注目されている児島地区など、新旧の観光資源に恵まれた地域である。

しかし、本地域と本土を結ぶ定期航路がないために、人の往来・交流は限定的であり、観光資源として十分な活用が図られているとはいえない。

【施策の内容】

本地域の魅力をインターネット等を通じて、幅広くPRしていくとともに、エコツーリズムや産業観光ツアーなど、本土側観光地を含めた観光ルートについて、民間渡船業者や観光開発業者等と連携して企画・実施することで、本地域の観光振興を図るとともに、交流人口の拡大を目指す。